

国際交流ひろば



鳥取市国際交流員
イザベル・ハーター

さよならドイツマルク ようこそ！ユーロ

今年1月1日から、ヨーロッパの12国が新しい単一通貨を採用しました。これが今話題の「ユーロ」です。今回はドイツで経験したユーロの流通開始について紹介したいと思います。

どこでも長い行列が

ドイツでは、国民が一日も早く新しい通貨に慣れるように、昨年十二月から二十マルク（十ユーロ二十三セント相当）の「スタート・キット」と呼ばれるユーロ硬貨セットが売り出されました。もちろん、ユーロは新年一月一日までは使えませんが、私もさっそく買いました。まだ誰も使っていない硬貨を初めて握ってみて、そのしつかりとした重さとキラキラとした輝きがとても気に入りました。

新しい通貨の導入時には偽造通貨が出回る可能性がとて

も高いため、国は新聞、テレビ、ポスターなどを通じ、国民にユーロのことを詳しく紹介しました。私は、通貨の大混乱を心配する一方で、さまざまな情報が紹介されるのを楽しみにしていました。

そして、いよいよ一月一日です。深夜二時半ごろ、年明けを祝うパーティーで、友達のとばこが切れた際、自動販売機に三ユーロを入れ、苦もな

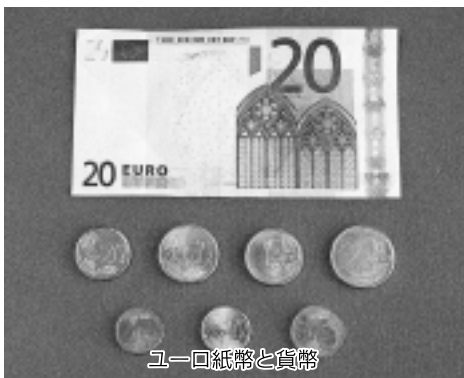
くたばこを買うことができた時はびっくりしました。また、元日にもかかわらず新しいユーロの紙幣を簡単にキャッシュ・コーナーから受け取るこ

とができました。

ユーロが採用された後の日々は新鮮な経験の連続でした。新年初めて買い物したり、映画館に行ったり、バスに乗ったりしましたが、ユーロに慣れていない人々が苦心して財布の中で新しい硬貨を探しているの、どこでも長い行列ができました。みんなの感想を聞いてみると、ドイツ人の多くはユーロを楽しみにしていました。同時に慣れ親しんだドイツマルクに別れを告げるのを少し残念に思っている人も少なくないようです。

各国独自のデザイン

どこの国でも通貨はその国の独自性を表すシンボルです。ユーロをEU（欧州連合）参加各国が取り入れるのは難しい問題だったと思います。この問題を解決する一つの方法として、硬貨の片面には各国が選んだ独自のデザインが施されています。そしてもう一方の面には、EU加盟国間の結束を表すため、共通のデザインが描かれています。



ユーロ紙幣と貨幣

当然のことですが、こうしたユーロはどの国のデザインであっても、すべてのユーロ参加国で使用できます。それがユーロの一番の利点です。たとえばイタリアで美術館へ入館する場合、ギリシャで使い切れなかったユーロ硬貨がそのまま使えます。また、フランスでの食事代をスペインのキャッシュ・コーナーから引き出したユーロ紙幣で支払うことも可能です。

ヨーロッパへの旅行が好きな日本のみなさんにも、ユーロはとても便利なことでしょう。そして、鳥取市民のみなさんがユーロを手に入れたのもそう遠いことではないと思います。